

平成25年度第2回 きずなづくりトーク 参加者意見の紹介

問合せ きずなづくり推進室 (☎983-2708)

きずなづくりトークは、市内14小学校区を対象に、各地域で活動する団体のリーダーが集まり、地域の課題について市長と話し合う取り組みです。広報みしま9月1日号に掲載した1回目の内容に続き、10月7日～11月22日まで開催した2回目の主な意見をご紹介します。



検討テーマ1

子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくり



キーワード 子どもの地域参加

- ▶ エリアを広げて、子どもが参加できるサークルのような枠組みがあるといい。
- ▶ シャギりでは保存会が中心になり、中学生などの参加を促すために18歳以下の子の浴衣を作成したところ、その後の運動会にも参加してくれた。
- ▶ お年寄りとのふれあいの場を意図的に設置する必要がある。昔の遊びや戦争体験・前回の東京オリンピックの話など、子ども達にとってプラスになると思う。沢地地区の豊かな自然環境（ホタルなど）も生かしたい。

キーワード 3世代交流

- ▶ マンションから子ども会役員、町内会役員を出してもらおうようにしたところ、運動会でも新しく入った人が多く参加した。
- ▶ 昔は地区で交流会があったが、現在では回覧板を渡す時の声かけもない。顔を合わせる機会を、隣組から作る事が大事。
- ▶ 運動会では綱引きなどで子どもとお年寄りの交流を実施したほか、提案を受けて、消防団と地域のスポーツ少年団との競技も新たに実施した。高齢者と小学生を対象にグラウンドゴルフ大会を企画し、体育振興会では交流の場を提供している。



キーワード 高齢者や子どもへの地域の見守り

- ▶ 高齢者が集う場があること、見守っているという情報を発信することが大事。
- ▶ (見守りについて)「自分たちで出来ることは、何か」と考えるようになってきた。市に頼るのではなく、行政を利用し、行動していくこと。
- ▶ 町内会に高齢者・老人会担当役員を置き、老人会と町内会とのつなぎ役を担ってもらうことはできないか。
- ▶ あいさつ教育の中心は家庭にある。学校と地域はその補完的な役割を担うもの。
- ▶ 錦田中学校では今年から「あさげ運動」(あいさつ・さわやかに・元気良く)を展開。いいあいさつができた生徒にはポイントをあげ表彰し、啓発している。



検討テーマ2

地域の実情に応じた防災訓練のあり方

キーワード 地域のつながり・防災組織の強化

- ▶ (災害時などの) 地域の連携と高齢者の問題は同じで、基本は日ごろのあいさつでつながることから始まる。役員に声かけを推奨し、散歩中にあいさつする姿が多く見られ、もっと広めたいと思う。
- ▶ スマートウェルネスの講演会で、日ごろの町内の交流(あいさつ・声かけ)や住民情報が、孤立を防ぎ、健康につながるという非常に役立つ内容を聞いた。
- ▶ 自治会で独自の防災マニュアルを作成。7組あるが、各組防災リーダーを4人ずつ選出し毎年研修会を実施。防災意識の向上につながる。
- ▶ 昨年の要援護者リストを参考に自主防災・民生委員と対応を協議している。

キーワード 学校・地域の連携

- ▶ 防災訓練では中学生が大変戦力になった。きちんとやってくれる中学生のボランティアは地域にとって頼りになる。
- ▶ 地域間で訓練日程を調整するなど、中学生が防災の担い手として活躍できる環境を整える。
- ▶ 子ども達の防災意識の向上が、家庭をとおして保護者の啓発にもつながる。
- ▶ 小学校と幼稚園は運動会や防災訓練を一緒に行うなど連携がとれている。
- ▶ 学校の避難所がいっぱいになってしまった場合は、マンションのエントランスを借りなければならない状況も発生しうる。周りの町内からマンションへ連携を呼びかけていくことも必要ではないか。
- ▶ 中長期的な自治会・組単位の活動を検討中。組長と防災関係者を1人入れた3~4人が組単位で、祭りや防災などさまざまな活動をまわし、自治会はこれをバックアップする。
- ▶ 幼稚園で迎えに来られない子がいた場合には、防災用に備蓄している毛布がある。学校と合同で毛布を分けて校舎の一部屋に寄り添っていられるようにしたい。



キーワード 防災訓練の内容

- ▶ 運動会と訓練の同日実施は非常に集まりがよく、効率がいい。
- ▶ (中学生などが) 参加するための工夫として、各町内の訓練日を事前通知してもらい担任から生徒に呼び掛けてもらっている。訓練時に各生徒が町内会長からサインをもらい、感想を記入して学校に提出している。
- ▶ 防災訓練が11月か12月、できれば(市内などで) 同日一斉開催だと、中学生はより参加しやすくなる。
- ▶ 「女性の視点での防災対策に対する意見交換会」に参加。被災地の女性の声を聞き、乳児がいる家庭の避難所暮らしなど身近な問題を話し合った。
- ▶ たかが訓練、されど訓練。東日本大震災の釜石の奇跡の例もある。訓練を意識化し継続することが大事。

きずなづくりトークでのご意見は市ホームページでも公開しています。